

いるのか、全日本学生水上スキー連盟幹事長で早稲田大学4年生の殿岡公介さんに話を聞きました。

「神栖市には早稲田大学の合宿所があり、毎週土日、夏休みは毎日泊まって練習をしています。水上に出来るのは1回15分と短いので、その15分に最大限のパフォーマンスをするため、陸上でロープを引っ張つて本番の動きを繰り返したり、体幹トレーニングをしたりしています。

応援合戦も見どころの一つ。河川敷で大学の旗を振り、応援歌を歌い、選手の名前をコールし、「絶対勝つぞ!」「燃えろ、いいぞ!」と声を振り絞って応援します。競技を終えた選手が水上でガツツポーズをすると、飛び跳ねながら拍手を送る仲間たち。選手が途中で転倒してしまっても、

応援合戦を楽しみながら

ど、波が立ちにくく消えやすい条件がそろつており、逆水門が閉まつていれば静かな水面が保たれます。またマリーナがあるので、モーターボートの保管からメンテナンスまで行なうことができ、学生の練習場所としても利用されています。

スピードを上げてクリアできた瞬間の達成感はたまりません。今年は学生最後のインカレですので、8位入賞を目指します」

殿岡さんは幹事長を経験したことで、卒業した先輩方の支えがあるからこそ競技ができるのだと身に染みて感じたといいます。そのため、卒業後も水上スキーに関わつていこうと考えているそうです。



①水上での宙返りはトリックの見せ場のひとつ ②高さ1.5mのジャンプ台から滑空 ③スラローム用スキー板は1本。ロープの長さもスピードに関係する
④会場付近ではチームメイトのほか選手の家族や近隣住民も観戦 ⑤ジャンプ競技選手で連盟幹事長の殿岡さん。ジャンプ用スキー板はこんなに大きい
⑥大会を通して他校との交流が生まれる

水の上で“非日常”を体感
見どころを解説してくれた守谷さん、西川さん、土屋さんの3人とも学生時代は水上スキーの選手。卒業後も30年にわたって手弁当で大会運営を支えています。なぜそれほど水上スキーに引きつけられるのか聞いてみました。

「人間が水の上に乗って、しかもスピードが出ている中で体を動かすこと 자체が『非日常』ですよね。そこが面白い」(西川さん)。「ピタッと静かな水面は鏡のようで、その上を滑るのは最高に気持ちがいいですよ」(土屋さん)。「大学に入学してから水上スキーを始める人がほとんどなので、みんなが同じスタートラインに立てて、頑張ればチャンピオンを目指せるのもいいですね」(守谷さん)
続いて、神栖市にまつわるエピソードや思い出を披露してもらいました。
「こちらに来たときはよく、鹿島神宮、香取神宮、息栖神社の東国三社を巡ります。とくに



息栖神社

陸に上がるまで大きな声援を送り続ける姿に胸が熱くなります。

他大学の選手も、良い演技には惜しみない拍手を送っていました。また、「次の選手は強いよ」「すごい技だ」「これは入賞するんじゃない?」など、学生から漏れるつぶやきが観戦のガイドになってくれて、より一層楽しむことができます。

選手や大会関係者の皆さんは、「水上スキーの迫力や疾走感を地元の

や田舎を持つて河川敷に出かけてみませんか？ 早朝から夕方まで競技が続くので、見逃す心配はありません。お散歩がてら気長に腰を下ろし、若者たちの熱い夏にエールを送りましょう！





水上スキーの熱戦を観戦しよう！
学連チャンピオンシリーズ第2戦 開催

日時 7/6(土)・7(日)
午前6時～午後5時(目安)
場所 常陸利根川逆水門近く
(横瀬地内)

- ※横瀬公民館(横瀬791-26)の駐車場をご利用ください
- ※熱中症対策として飲み物やタオルなお持ちください
- ※イスや日傘などをお持ちになると過しやすいです



詳しくは連盟公式facebook
「学連スイスキくん」をご覧ください

理想的な川を練習拠点に



会場に宮殿和柄リレーが、一
ますので、これまで大会で大きな
事故がなかつたのは、息栖神社に
守られているおかげだと思ってい
ます」と話す土屋さん。その言葉か
ら、息栖神社と水上スキーを大切
に思う心が伝わってきて、温かい
気持ちになりました。